Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-04-20

フレーベルの『母の遊戯と育児歌』の教育的意義とアメリカ,日本での受容の検討 : その1 その教育的意義とアメリカでの受容

白川, 蓉子

(Citation)
神戸大学発達科学部研究紀要,4(2):97-113

(Issue Date)
1997-03

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81000245

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000245

神戸大学発達科学部研究紀要
第4巻第2号　1997

フレーベルの『母の遊戯と育児歌』の教育的意義とアメリカ、日本での受容の検討

――その1　その教育的意義とアメリカでの受容――

白　川　蓉　子*

F.Fröbel's "Mutter-Spiel und Koselieder" examined, and its Introduction to America and Japan in the late nineteenth century

Yoko Shirakawa

1．研究のねらいと方法

研究のねらい

幼稚園の創設者、フリードリッヒ・フレーベル（Friedrich,W.Fröbel 1782-1852)が、詩と遊戯説明文を書き、フレーベルの編集方針のもとに挿絵と音楽（曲）をつけた「遊戯絵本」ともいうべき書が、Mutter-Spiel und Koselieder,1844（本論文では『母の遊戯と育児歌』と訳すことにする）である。本書はフレーベルが63歳のとき、西部ドイツ地方を旅行しながら幼稚園保育の宣伝運動を繰り広げ、幼稚園がドイツ各地に設立されはじめた1844年に出版された。1) 本書の出版と同年に、幼稚園の遊戯教材である「第三遊具」2) の遊び方が発表されている。本書は、その副題に「家庭のための本」(Ein Familienbuch)と書かれている。実は、当時の幼稚園は、母子で通い遊戯をする施設であり、個々の家庭をつなげる環として位置づけられていた。したがって、本書は、家庭の育児書であると同時に、幼稚園の遊具とならぶ遊戯教材本でもあった。

また、本書はフレーベルの浪漫主義的な思想を最も反映した書とも言われており、浪漫主義思想の結晶ともいうべき「幼稚園 Kindergarten 」3)の本質を理解するうえで鍵となる書でもある。

１９世紀後半に幼稚園が、アメリカ、日本をはじめとして世界各国に普及するなかで、本書も欧米や日本で翻訳出版され、幼稚園での遊戯実践に採り入れられた。ところで、遊戯歌や子守唄は、幼い子どもに遊びをともなって、語り、唄いきかせるという意味で、普遍的である。多くの民族が子どものための遊戯唄（ わらべうた）や子守唄をもっている。しかし、一方で、これらの遊戯唄や子守唄は、それぞれの民族の文化や風土に根ざしている。絵本の絵となると、さらに、その国の風土を映し出すことになる。したがって、この「遊戯絵本」が欧米および日本に幼稚園教材として受容された場合、受容過程でなんらかの文化変容が起こらざるをえなかった。その変容の過程を規定する第１の要因は、受容する国の文化や風土であり、第２の要因は、受容する国でよしとされている教育的価値であったと思われる。

本論文は、第一にフレーベルの『母の遊戯と育児歌』の原著の教育的意義と普遍的価値をとらえ、第二にそれが他文化のもとに教材として受容される過程と、その際に起こる質の変容を前述の２つの

＊ 神戸大学発達科学部児童発達論講座

要因から、アメリカと日本のケースについてあとづけ分析しようとするものである。今から１５０年前に出版されたとはいえ、この「遊戯絵本」の教育的意義や普遍的価値は廃れていない。原著の一曲一曲、詩の一遍一遍、遊戯のひとつひとつについて教育的検討を加える研究[4]も意義があるが、それは後の機会にゆずることとし、本論文ではこの「遊戯絵本」の全体的な教育的意義をとらえるにとどめざるをえない。

研究の方法

本論文では、フレーベルの原著の翻訳と、アメリカと日本で翻訳または翻案されたテキストのうち「ねらい」との関連で重要なものをとりあげ、内容を分析比較する方法をとる。分析比較の対象とした主要文献は次のものである。

①F.Fröbel,Mutter-Spiel und Koselieder, 1844　この「遊戯絵本」の原本に最も近い翻訳本で、日本に最初に紹介されたのは、①-a）茅野蕭々　訳『フレョエベル母の歌と愛撫の歌』（1934　昭和９年）岩波書店である。本書は、Fr.Fröbel, Mutter= und Koselieder von Johannes Prüfer, 1927 の訳であり、プリューファー[5]の長文のあとがき「この著作が生まれ出た精神　ドクトル・イョハンネス・プリュウフェルの跋」が掲載されている。訳者の言葉に、この本の絵画が「原著初版本によって」複製されたこと、そして日本で唯一の初版本の所有者であった倉橋惣三[6]が岩波書店にそれを貸与した、[7]とあるが、この初版原本とは1844年の原著ではない。またプリューファーのあとがきには、ランゲ編集[8]の原本にふれているが、この本が果していつ日本に入ってきたのかは、今のところ不明である。茅野蕭々はドイツ文学者であり、フレーベルのドイツ語の詩と説明文をわかりやすく、文学的に翻訳している。また挿絵は原画に最も近いように、当時の最新の技術を用いて複製したといわれる。これ以前には、後の章でとりあげるハウ[9]の『母の遊戯及育児歌』（1897 明治30年）があるが、これは、ハウの教育思想と当時の日本文化を反映させた、いわば翻案された本であった。やがて、第２次世界大戦後、フレーベル研究が進むなかでフレーベル研究者による現代的で教育学からの翻訳が出た。①-b）ヨハネス・プリューファー編　荘司雅子訳『フリードリヒ・フレーベル　母の歌と愛撫の歌』昭和５６年　玉川大学出版（小原国芳・荘司雅子監修　フレーベル全集　第五巻所収）である。本研究ではフレーベルのオリジナルな「遊戯絵本」の検討に、以上の２書を用いる。

次に、アメリカでの翻訳紹介本としては、以下の２書を中心に検討する。

②-a）Mother's Songs, Games, and Stories　Fröbel's "Mutter= und Kose=Lieder" Rendered in English by Frances and Emily Lord, Chicago, Alice B. Stockham & Co., 1891 (First Edition, June 1885)

本書はフレーベルの Mutter-Spiel und Koselieder　をアメリカで最初に原著に忠実に英語に翻訳したもである。第一部は、挿絵と絵のなかに書きこまれた原著のままの詩と、反対頁に詩を英語に訳したものからなり、第二部はフレーベルの「遊戯の説明文」をまとめて英訳してのせ、最後に遊戯の曲の楽譜が掲載されている。

②-b）The Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play, Songs newly translated and furnished with new music prepared and arranged by Susan E. Blow, D.Appleton and Company; New York, 1895

本書はアメリカで幼稚園普及運動の先頭にたって幼稚園をひろめたスーザン・ブロウ[10]が、彼女の教育思想でフレーベルの「遊戯絵本」を新しく翻訳しなおし、アメリカの子どもに適した曲を選曲して詩につけて、出版したものである。

日本での受容においては、次の本が重要な役割を果たした。

③『母の遊戯及育児歌　上下』 A.L. ハウ　著　頌栄　1897年

本書は頌栄短期大学と頌栄幼稚園の創設者、ハウが「多大の時間・労力・金銭を要して」[11] 翻訳出

版したものである。詩も説明文も省略なく翻訳してあり、挿絵は日本の風土と生活習慣にあわせて翻案されている。明治４０年に第二版、大正５年に第三版、昭和４年に第四版が発行され、昭和９年茅野蕭々の翻訳がでるまでは、日本で唯一の翻訳紹介本であった。

２．フレーベルの『母の遊戯と育児歌』（Mutter-Spiel und Koselieder,1844）の教育的意義

（１）『母の遊戯と育児歌』の浪漫主義的性格

フレーベルとドイツ・ロマンティーク

浪漫主義とは、１９世紀の２０年代から３０年代にかけてヨーロッパに興った文学・芸術・思想の潮流である。浪漫主義の背景には、１８世紀末のフランスのブルジョア革命によってもたらされた、安定した封建制社会の崩壊と資本主義の台頭という、ヨーロッパ全体をゆるがした社会変動があった。浪漫主義は、発展し始めた近代資本主義社会への観念論からの抵抗であり、伝統への憧れ、人間の主体性の回復、個性の尊重、合理主義にたいする非合理的な感情や想像力の解放を主張した。ドイツの初期浪漫主義は、フィヒテの観念論哲学をよりどころに、イエナ大学の青年たちから起こった。代表的な指導者はフリードリッヒ・シュレーゲル(1772-1829) やノヴァーリス(1772-1801) らであった。やがてナポレオン軍に対するドイツ解放戦争(1813-15) を契機に、ドイツ全土にドイツ統一運動が起こり、浪漫主義は民族主義の色調をおびて行く。文学では民俗文学の発掘がさかんになり、グリム兄弟（ヤーコプ1785-1863,ヴイルヘルム1786-1859)が民話を集めて童話をつくりあげた。浪漫主義は、新しい近代社会の諸欠点をとらえ批判的にのりこえてゆこうとする流れと、幻想や神秘に向かって現実から逃避する傾向があったと後になって評価されている。[12] フレーベルは思想形成がなされる青年期に、初期浪漫主義の拠点地、イエナ大学に入学している(1899 年) 。その後、職業遍歴のなかで、シェリング学派の哲学者と出会い、シェリングの書物に心を動かされ、[13] さらにノヴァーリスやアルント (1769-1860)の著作に接している。[14] やがて、祖国ドイツの統一と自由を求めて、ドイツ解放戦争に志願して参加した。戦争から帰ってからは、理想的な人間教育を実践することをとおして、ドイツのあるいは人間の理想を実現しようとしたのである。フレーベルの人生とライフワークには、ドイツ・ロマンティークの影響が色濃くあらわれている。フレーベルの人間教育の目的は、内的精神を育て、神－人間－自然の三者の統一を自覚して生きる人間をつくることであった。浪漫主義文学は、想像、幻想、怪奇へ向かう傾向もあったが、ロマンティークの教育学は、人間の内なる精神を重視する。フレーベルの場合、人間の精神の根源へ遡っていくうちに、無意識の時代である乳幼児期に到達した。さらに、精神の活動的な顕れとしての「遊戯」(Spiel) を人間の精神の最高段階[15] として認めるようになったのである。ロマンティークの思潮をベースにしながら、近代社会が人間にもたらした困難に積極的に取り組みつつ独創的につくりあげたからこそ、フレーベルの幼稚園は世界に普遍的なものとして受け入れられたといえる。

「遊戯絵本」――― 遊戯・詩・挿絵・音楽の総合

子どもが世界を認識するようにと作られた教育絵本の最初のものは、コメニウスの『世界図絵』[16] である。コメニウスは「知識は感覚器官をとおして得られる」という考えのもとに、子どもの周囲のあらゆる物を感覚に訴える絵で表した。ペスタロッチも、「直観(Anschauung) がすべての認識の基礎である」として、事物教授には絵や図形をもちいた。[17] このように、子どもの感覚をとおしての教育という流れで、教育絵本はフレーベルの本書以前にすでにあった。しかし、フレーベルのこの書は単なる教育絵本とは異なっている。ペスタロッチの学校を２度も訪問し、授業を担当し、研究会にもでた結果、フレーベルはペスタロッチの直観教授法に何か不足なものを感じた。それは「人間を満

足させる生動性(Lebendigkeit)の不足」であり、「教材の有機的関連(organische Zusammenhang) の欠乏」18) であった。ここに浪漫主義思想家としてのフレーベルらしい思想の芽生えが表れている。フレーベルが着目したのは、ひとつひとつの事物を直観に訴えて認識させるのではなく、世界と人間の根底にある法則や本質を「遊戯絵本」のなかに顕して、幼い子どもに感じとらせようとすることであった。遊戯・歌・絵画を連関させて総合した一冊にし、そこに世界とその奥に存在する神や自然の法則や本質を象徴的に表そうとしたのである。ここに、それまでの感覚教育の流れとは異なる浪漫主義的であり、かつ独創的な「遊戯絵本」が生まれたのである。

母と子の愛情の絆

この「遊戯絵本」は何よりも、母親や保育者が乳幼児に「あやしかけ」「唄いかけ」「語りかけ」「いっしょに遊び」ながら見る絵本である。この本の最初の部には、「母の歌と愛撫の歌」として、7編の詩がのっている。それらは、以下のような題名である。19)

1．初めての子を見つめる母の感情
2．子どもとひとつの命(いのち) を感じる母
3．わが子を見て幸福を感じる母
4．わが子と遊ぶ母
5．すくすくと育つ子を眺める母
6．母の膝に立ち腕に抱かれる時の子と母
7．母の胸に抱かれる子

7つの詩は、新しい生命を授かった母の心を表現しながら、母の生命と子の生命の間の愛の深まりをうたいあげている。そしてその愛は父なる神の愛とひとつに結ばれているのである。
ここでは、最後の「母の胸に抱かれる子」の詩を引用しておく。

母の胸に抱かれる子20)

母よ、あなたの命の花が求めるのは栄養だけではありません。
まこと，子は本能から
愛を求めているのです
うやうやしくゆかしい愛の心を求めているのです。

みどり子がどんなにうれしそうに母の胸に
すがっているかごらんなさい ——
みどり子を母のもとへひきつけるのは
まどろんでいる愛の心です
いま乳をのんでいるとおりに　いつか母の教えを
心にとどめるようになるでしょう
そしてひそかなあこがれを胸にこめて
いつか愛する母を抱くでしょう
そしてやさしい母のいつくしみから
みどり子の感じやすい心は励ましをえるでしょう

このように、「命の花」に象徴される赤ん坊は、まだもの言わぬのに、愛を求め、愛にこたえる心をもっていて、子を愛する母の心とのあいだに目にみえない絆がつくられる。フレーベルは詩の形式で

この目に見えない愛情の交流を世の母親たちに気づかせようとしているのである。フレーベルは幼稚園の設立計画書21) でも、「ばらばらに切り離された母と子の生命を再び結合すること」をのべている。資本主義経済がドイツの農村地域にも工場を進出させ、封建社会の家族の結合はゆるみ、母と子の絆も脆くなってゆく。フレーベルはこの状況に危機を感じ、目にみえない心と心の結合を再びとりもどしたいと願ったのである。ロマンティークは、生命の根源や無意識の深層心理を追求することから、フレーベルは母親の心性に無意識に宿っている母性や、母子のの間に目にみえぬが育まれる相互愛をどの教育思想家よりも強く意識した。これは精神がバラバラに分離された近代社会の欠陥に前向きにとりくもうとした積極的な姿勢である。その結果、大人と子どもの精神を結びつける施設として幼稚園を設立し、実践をしたのであった。ロマンティークの文学や芸術に一部みられた、幻想や怪奇や神秘へと現実逃避するという潮流からはほど遠いものであった。また、紙面の都合であまりふれることができないが、フレーベルは、母性とともに、父性についても絵本のなかで象徴的にとりあげている。それは確かに、封建的な母親像、父親像であるには違いないが、要するに、失われつつある親子の精神的絆をとりもどそうとしたという意味で意義深いものである。

「伝承遊び」の採集と編集

第二部は、「遊戯の歌」という標題で４９篇の詩歌とひとつひとつにつけられた遊戯の説明文からなっている。これらの「遊戯の歌」の題名がわかるように、目次を注にあげておいた。22) ４９篇の詩歌と遊戯の説明文を読むと、その多くのものが、世界中どこにでも見られる「あやしかけ」「手遊び」「親子遊戯」「わらべうた」等々と共通のものであることがわかる。具体例をあげよう。最初の詩、『足をばたばた』は次のような詩歌と、挿絵（図１）である。

足をばたばた23)

幼子がうれしそうに手足を動かすと
母はいっしょに遊びたくなります。
神は教えてくださいました。
　　小さいうちにはやく，
　　上手に，やさしく，
外からの刺激で心の内の生命を養いなさいと。
ふざけたり，遊んだり，じょうずに
からかったりして，感情や感覚や，
そして予感を目ざめさせなさいと。

かわいい足をばたばたさせて
けしと亜麻の油をしぼりましょう
小さくきれいなランプに入れて
　わが子のために
　母が夜長をあかすとき
　明るくきれいにともるよう

遊びは、挿絵にあるように、入浴を終えてベッドに寝かされた赤ちゃんが、機嫌よく両腕と両足をばたばたさせるときに、母親が赤ん坊の足や腕をもって、搾油機がまわるように、歌いながら動かすのである。このような遊びは、日本でも、昔からよく行われていたものである。フレーベルは説明文の最後のほうで述べている。「（略）このお母さんは不意に、自分が赤ん坊のころ、足をばたばたさ

せた遊びを思い出しました。そして自分の子どもたちを見やって、自分の遠い昔を思いながら，ひとりたずねてみます。『この子たちは，大きくなってから感謝をもって私の愛にこたえてくれるかしら。』」[24] このように、お母さん自身が赤ん坊の頃から遊んだ伝承遊びなのである。日本では、搾油機ではなく機織り機にあわせて遊ばれたかもしれないような、よくある遊びである。

次の「ぱったりこ、ぽうやがころぶ」(Bantz! da fällt mein Kindchen nieder)は、敷物やベッドのうえで、はじめは母親の両手で、赤ん坊の肩や腕を取って上体を起こし、やがて、歌にあわせて、両手をすべらせて、赤ん坊を「ドスーン」と落とす遊びである。日本でも、これによく似た遊びが何種類か考えられる。

３番目の「塔の風見」(Das Thurmhähnchen) は、塔の上の風見鶏や、風に回る風車や、風になびく旗や凧を真似て、母親と幼児が両手を上げて手首をくるくる回す遊びである。これも、似たような遊びが何種類か、日本でもみられる。１５番目の「はとの家」(Das Taubenhaus)は、この本では手遊びであるが､後には、輪になった子どもたち（鳩の小屋）の中の数羽のはと役の子が、輪から飛び出し、やがてある歌詞のもとで、再び輪の中にすべりこむという集団遊戯に変容していった。この集団遊戯と全く同じ形式はみられないが、この形式は伝承遊びの基本型のひとつである。１６番目の「親指はすもも」(Das Däumchen ein Pfläumchen)、１７番目の「親指のごあいさつ」(Däumchen neig'dich)、１９番目の「親指でひとつ」(Beim Däumchen sag' ich Eins) は、日本の伝承遊びにもよくある指遊びである。「親指はすもも」の説明文ではフレーベルは次のように書いている。「この遊びは、国中のすべての人や子どもの生活,また家庭や子ども部屋で親しまれているもので、普通，『これは親指』とか『小さな親指』とかいうふうに始められます。けれども私の知っているかぎりでは，この遊びはあまりにも空虚で意味がなさすぎ，その一部分などは，子どもには言わせたくないと思うような言葉もあるように思います」[25] こうして世俗的な伝承遊びを書きかえて創作しているのである。

以下に「親指でひとつ」と日本のわらべうたを並べてあげておく。

「親指でひとつ」[26]	日本のわらべうた[27]
親指でひとつ	親指眠れ
人さし指でふたつ	さし指も
中指で三つ	中指
薬指で四つ	紅指
小指で五つ	小指
みんなを寝かしつけました	みな、ねねしな
おやすみ　もうだれも動きません	ねねしな
静かに静かに目ざめぬように	ねんねしな

（２）『母の遊戯と育児歌』の挿絵(drawing) と曲(music)

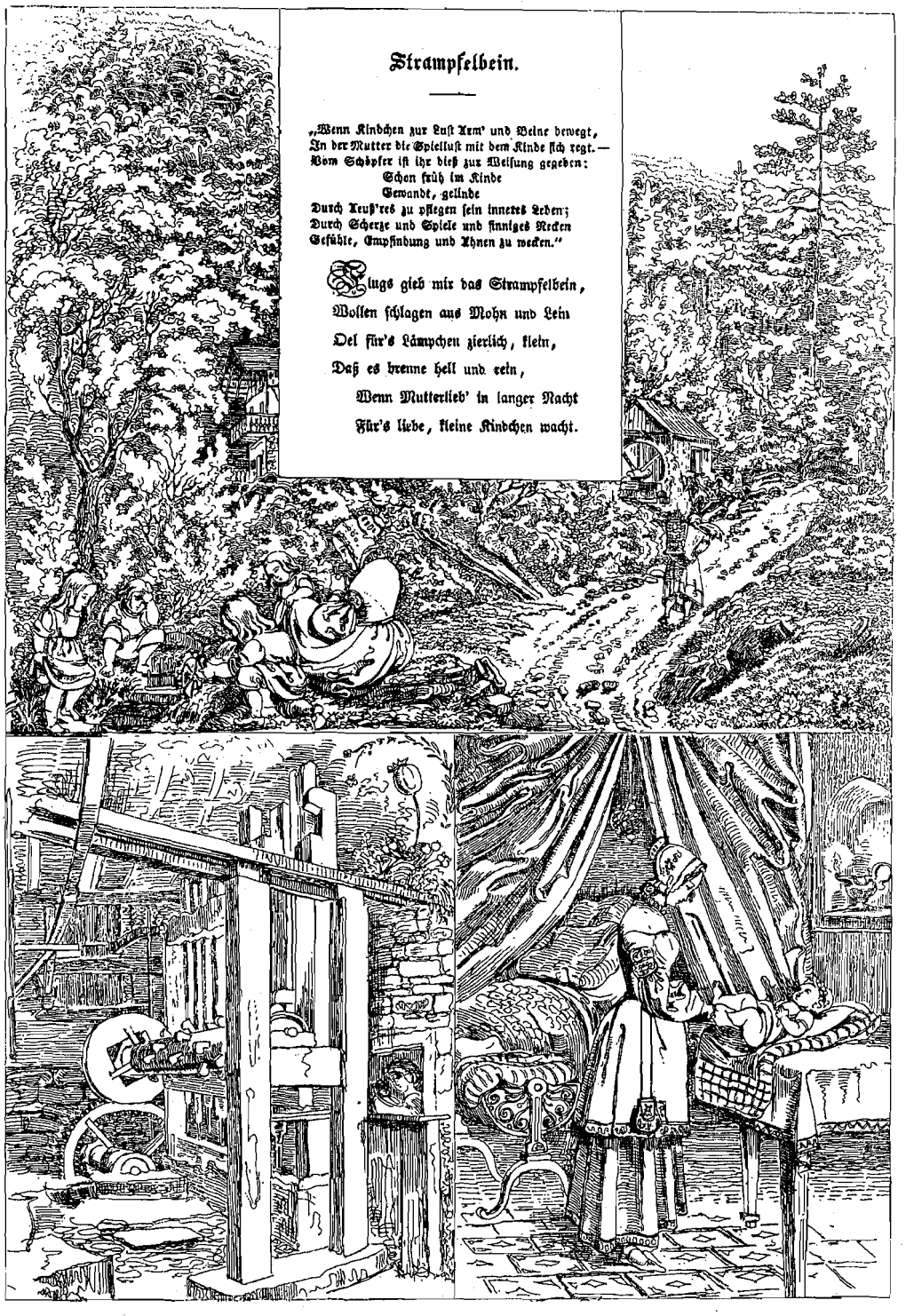
ロマン主義画家ウンゲルの挿絵

『母の遊戯と育児歌』のあとがき「この本を生みだした精神」の中でヨハネス・プリューファーはこの本の挿絵を画いたウンゲルについてのべている。Friedrich Ungel(1811-1858)は、ホーフの織物職工の息子として生まれ、1825年から1827年までカイルハウの学校で過ごし、1828年10月からミュンヘンの王室美術学校で画家になる勉強をした。その後ホーフに戻ったが、やがてブランケンブルクでフレーベルと出会い自分の芸術でフレーベルの教育活動に協力した。しかしフレーベルがブランケンブルクを離れたころから窮乏生活にはいり、職をさがしてあちこちを転々とする。最後にニュルンベルクのゲルマン博物館での仕事を手にいれたが、長年の苦しい生活のため精神を病み、憂鬱症の発作で

自殺してしまった。ドイツの浪漫画派は、1810年、ローマの聖イシドロ僧院に、ドイツ人の若い美術家が集まって作られた。その中の重要な指導者、ペーター・コルネリウスが、1819年、当時のバイエルンの皇太子で後の国王ルードウィッヒ一世の招聘でミュンヘンへやってきた。その後、ミュンヘンは浪漫派絵画の中心地になっていった。28) キリスト教人名辞典にはペーター・コルネリウス(1783-1867) は、線画を主とした壁画を手がけ、1824年からミュンヘン美術学校校長になったとされている。

図1にウンゲルによる銅版画の「足をばたばた」の挿絵を示した。29)

図1



『母の遊戯と育児歌』の音楽 ――― 幻の楽譜とローベルト・コール

茅野蕭々訳の『母の遊戯と育児歌』の目次を見ると、「＊印のある歌はローベルト・コール(Robert Kohl)の歌曲がある」の注が上段についている。30) そしてこの星印は、第一部の７編の「母の歌」では、２．の「子どもとひとつの生命を感じる母」のみについていて、第二部の４９編の「遊戯の歌」のほとんどについている。詳しくのべると、星印のついているのは、１～２１番、２７～３５番、３７～４５番、４８番、である。プリューファー編だが、原本を忠実に再生しているこの訳本では、内表紙の下段に　Mit Randzeichnungen, erklärendem Texte und Singweisen.(素畫、説明文及び歌ひ方を附す――茅野訳)31)　と枠に入った但し書きが書かれている。これを見たかぎり、楽譜がついているものと思うのであるが、楽譜はどこにもついていない。１９２７年のプリューファー編には、楽譜がついていないことは確かなようである。では、ランゲ編の本には楽譜はあったのであろうか。１８６２年のランゲのフレーベル全集（１９６６年復刻版）には、楽譜はもちろんのこと、『母の遊戯と子守唄』そのものが収録されていない。恐らく、１８６２年の時点でも、楽譜はついていなかったのではないかと思われる。そこで、最後の疑問につきあたるのであるが、１８４４年のフレーベルの原著に曲の楽譜がついていたのか、の疑問である。筆者は、現在のところ、原著版の楽譜を見ていない。１８４４年頃では、まだ、唱歌教材を五線譜で表記し編集するまでになっていなかったのではないかと、推測している。例えば、フレーベルが１８０８年に、二度目にペスタロッチのイヴェルドンの学校に滞在したとき、「唱歌は符号によって教えられた」32) と記述している。これは、五線譜ではなく数字で旋律を表すもので、ヨーロッパで当時、広く用いられていたらしい。また、実際に子どもが遊戯唱歌を習うときは、遊戯動作とともに、耳からならい覚えたであろうから、五線譜は必要なかったと思われる。唱歌教材が五線譜で編集されるのはもうしばらく後のことと考えられる。本論文の１章の基本文献にあげた、②-a）のFrances and Emily LordによるMother's Songs, Games and Stories; Frobel's "Mutter= und Koselieder",1891(First Edition 1885). は後に詳しく述べるが、原著に忠実な翻訳で、最後に目次の星印のついたすべての詩の音楽（曲）の楽譜がついている。楽譜部分の内表紙には次のような標題がついている。

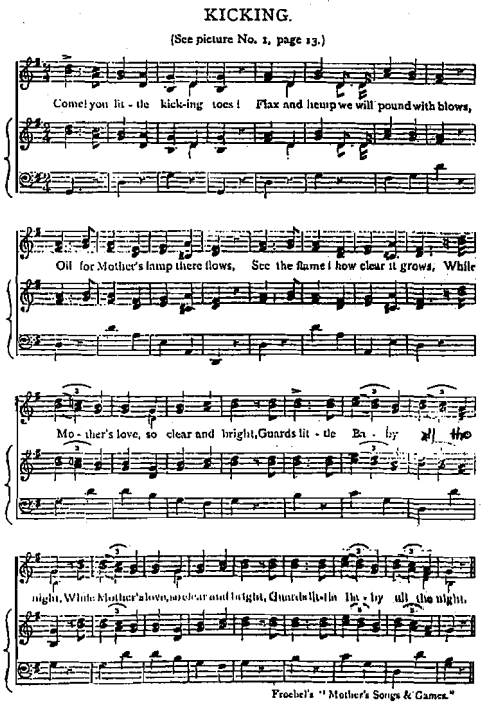
MUSIC FOR MOTHER'S SONGS, GAMES AND STORIES being the original German melodies
for Fröbel's "Mutter= und Kose=lieder" .....NEW AND REVISED EDITION, LONDON,1890

この内表紙の表記から、１８８５年には、ロンドンで、五線譜で表した『母の遊戯と子守唄』の曲集が出版されたことがわかる。そして、これらの曲はローベルト・コール（Robert Kohl)の作曲によると銘記されている。

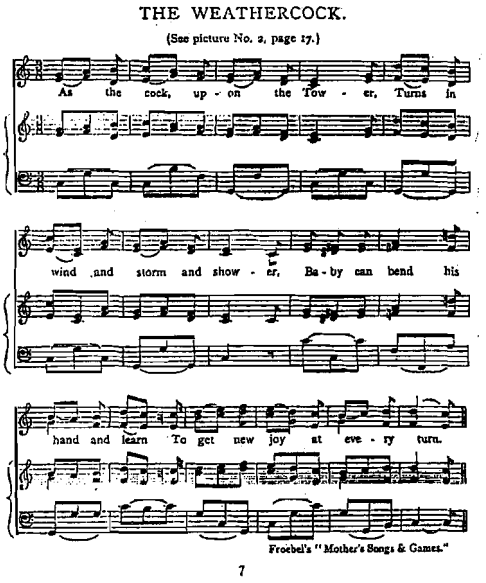
では、いったいこのコールとはどのような音楽家なのであろうか。音楽大事典（平凡社）には、ローベルト・コールの名前は出てこない。再び、プリューファーの「あとがき」にたよるしかない。プリューファーによると、ローベルト・コール（Robelt Kohl 1813-1881)は、アンテンブルクの教師の息子として生まれ、フライベルクのギムナジウムからライプチッヒ大学に進み、牧師となる勉強のかたわら、音楽を研究した。1839年から1845年まで、カイルハウの学校で教師として活動し、若々しく、元気で熱心な教師として生徒たちの人望を集めた。この間に、『母の遊戯と育児歌』の作曲でフレーベルに協力したという。コール氏について、フレーベル自身が、言及したものもないため、これ以上のことはわからない。

図２に、コールの曲である「足をばたばた」（②-a）の英訳ではKICKING となっている）、「塔の風見」(同じくThe WEATHERCOCK)を掲載する。コールの曲を音楽的に検討するには、専門家の協力を得なければならない。ただ、３拍子の曲や付点音符を多く使った曲が多いのが、素人にもわかり、踊りや遊戯動作に伴うからではないかと思われる。

図２　「足をばたばた」



「塔の風見」33)



３．『母の遊戯と育児歌』のアメリカでの受容

移民が持ち込んだ文化のひとつとしての幼稚園

日本の幼稚園は、明治政府の近代化政策のもとで、進んだ欧米文化のひとつとして文部省の意向のもとに導入された。最初の幼稚園が国立大学附属幼稚園（明治９年　東京女子師範学校附属幼稚園）であったことは幼稚園史において他の国に比べて特徴的である。こうして、公立主導が続き、1909年から、数のうえではキリスト教や仏教関係者他による私立の幼稚園が公立を凌ぐようになった。

アメリカの幼稚園導入は、日本とは対照的な経過をたどっている。１９世紀半ばに多くのドイツ人移民がアメリカにやってきた。彼らは、フレーベルの幼稚園の思想や教育方法をアメリカに持ち込んだ。アメリカで最初の幼稚園は、1856年、ドイツからの政治亡命者、カール・シュルツの妻、マルガレータ・シュルツがウィスコンシン州のウォータータウンに開設した。これは、ドイツからの移民の子どもたちのために開かれ、ドイツ語で保育が行われていた。英語の幼稚園の最初のものは、エリザベス・ピーボディーが、1860年にボストンに開設した。エリザベス・ピーボディーは、アメリカ各地を飛び回り、博愛主義的な社会運動として幼稚園の普及につとめた。最初の公立幼稚園は１８７３年にセント・ルイスに設立され、そこで教師をし、幼稚園教師を指導したスーザン・ブロウは、フレーベル主義の旗手となった。シャピロ(Shapiro,1983)34) は、1872-1880 年を区切って、幼稚園運動のセント・ルイス全盛時代としている。すなわち、セント・ルイスで、ヘーゲル派哲学者であり教育者でもあり、後のセント・ルイス教育長となったウィリアム・ハリス(William Torrey Harris 1835-1909) とスーザン・ブロウの共同によってフレーベルの幼稚園が、教材や保育技術だけでなく、その思想や原理の根本から研究し紹介され、正統派フレーベル主義が確立した時代であった。幼稚園の数も70年代に飛躍的に増えた。さらに、1876年米国建国百年記念博覧会がフィラデルフィアで催され、一千万人以上のアメリカ人がつめかけたなかで５つの幼稚園が模擬保育の実演を行ったが、ブロウもセント・ルイス幼稚園の展示を行い、フレーベルの理念を正確に実践して評判をえた。35) この博覧会

には日本からも田中不二麿等が出席し、文部省は同年幼稚園の創設をひかえながら、フレーベルの遊具や教材を作って展示した。しかし、この時、５つの模擬保育のなかでも、ボストンのフレーベル協会が行った「百年記念幼稚園」は孤児たちを対象に保育をし、「アメリカ幼稚園」はフレーベルの幼稚園にあまりとらわれずにアメリカ社会にあわせた保育を実演するなど、すでに幼稚園という名のもとでの保育方法の多様化が始まっていた。スーザン・ブロウは、幼稚園教師だけでなく、母親たちにも講演や講習を行い、多くの信奉者を率いることになった。

ブロウとハリスによる象徴主義教育とフレーベル主義幼稚園の衰退

スーザン・ブロウは、セント・ルイスの大実業家、政治家であり、後に米国ブラジル大使となった父(Henry T.Blow)と保守的な母の家庭に生まれ、家庭教師のもとで、厳しい宗教教育を受けて育った。１６歳のとき、ニューヨークの私立女子アカデミーで正規の教育を始めるが、それは、ブロウ自身の回想では、いい加減な学校であり、彼女はひとり、シラー，ブラウニング，テニスンなどのロマンティックな詩を愛読しながら、思索にふけっていたという。[36] 父のブラジル駐在に同伴して南米とヨーロッパを旅行したときに、フレーベルの幼稚園教育に接したらしい。セント・ルイスの学校で補助教員をしていたとき、ブロウは、すでにフレーベルの幼稚園教育法に関心をもっていた教育長のハリスに出会う。1872年の、この２人の出会いが、セント・ルイスのフレーベル主義幼稚園の出発であった。ブロウはハリスの勧めで、ニュー・ヨークのクラウス・ベルテ夫人のマリア・ベルテ(Maria Boelte)[37]の幼稚園教員養成所で、本格的にフレーベルの幼稚園法を学ぶことになる。この養成所は、まさに、ドイツのフレーベル主義で凝り固まっており、毎日、フレーベル遊具(Gifts 適当な訳がなく、日本では明治の始めに「恩物」[38] と翻訳されたので、以後、恩物とする）と作業具[39] の細かい技能的な訓練（occupation　日本では、後に「手技」といわれた）がなされ、歌と遊戯や美学が教えられた。知識欲の旺盛なブロウは、この骨折れる養成カリキュラムをこなしながら、ここで、ドイツ語やドイツ哲学も学んだと思われる。セント・ルイスに戻ったブロウは、ハリスが構想して実現した最初の公立幼稚園の教師となった。ハリスの哲学理論とブロウの実践が結びついて、フレーベル主義の幼稚園実践が成立した。ハリスはヘーゲル哲学を子どもの発達理論に適用しようと努力していた。彼は、子どもは４歳までは感覚的印象で外的世界を受け入れながらまだ抽象的な思考はできないが、この段階と抽象的思考ができるようになる段階の中間に、象徴的段階があると考えた。この考えからすると、４歳から６，７歳までの幼児期には、フレーベルの積木遊びや身体表現遊びは有効であるはずである。この点ではハリスの理解は正しかったと思う。

1885年から1910年にかけては、幼稚園が公立学校に統合されるとともに、幼稚園運動内部で、保育方法をめぐる論争が展開された時期であった。1885年、全国教育連盟(The National Education Association)に幼稚園部会が設けられた。その第一回の会合で、スイス生まれで、ドイツから政治亡命をし、アメリカの幼稚園運動を進めてきた、会長のウィリアム・ヘイルマン(William Nicholas Hailmann)から、幼稚園の原理は何かを問いただす鋭い問題提起がなされた。フレーベル主義幼稚園への問題提起と批判は、アンナ・ブライアン，パティ・スミス・ヒル，ジョン・デューイ，スタンレイ・ホール，キルパトリック等の「進歩派」と呼ばれる人々と、スーザン・ブロウの率いる「保守派」の大激論となり、論争は２０世紀を越すまで続いた。なかでも、スタンレイ・ホールは、科学的な児童研究と進化論学説を発達理論に適用し、フレーベル主義幼稚園を、幼稚園教師への中傷まで加えて、徹底的に攻撃した。ホールが最も批判したのは、フレーベル主義幼稚園の象徴主義であり、とりわけ、恩物への固執をやめるべきであるとともに、『母の遊戯と育児歌』は全く価値のないものとして、新しいものに取って代わるべきとさえのべた。[40] 論争の経過は紆余曲折を経るが、ともあれ、２０世紀の２０年代頃には、アメリカの幼稚園はフレーベル主義幼稚園とは様変わりをした新しい保育になってい

たわけであるから、ブロウとハリスの正統派フレーベル主義が敗れたといってよいのであろう。本論文はアメリカの幼稚園運動について論じる目的ではないのでここまでに止めることとする。

『母の遊戯と育児歌』の受容

一冊の「遊戯絵本」としての『母の遊戯と育児歌』が、アメリカで最初に翻訳されたのは、1885年初版のFrances and Emily LordによるMOTHER'S SONGS, GAMES, AND STORIES(②-a) 以下ロードの訳本とする) である。本書はプリューファー編が最も原著に近いとすれば、はるかに小さい版(A4 版の半分) になっている。目次を照合すると、省略なくすべての詩歌と挿絵が同じ順番で、見開きの左頁に英訳された詩、右頁にドイツ語の詩の入った挿絵が掲載されている。ひとつひとつの遊戯歌の説明文はプリューファー編と同じように、まとめて二部に収められ、さらにその後に、音楽の楽譜がまとめて収録されている。楽譜は、目次で星印のついたものの全てで、41曲となっている。この音楽の部の内表紙には前章で引用した表記の後に、「子どもの声に合うように移調し、ピアノ伴奏をつけた」[41]の但し書きがついている。したがって、図2 の楽譜はコールの曲を移調して、ピアノ伴奏をつけているのである。さらに、フランシス・ロードによる初版のための序文には、「ローベルト・コールは、二重唱のメロディーにし、最初の歌にしか伴奏をつけていなかった」し、コールの選んだ音程は子どもには高すぎたので、専門の音楽家にたのんで高すぎる曲を移調し、すべての曲に伴奏をつけてもらった、と記されている。[42] 1885年6 月の初版序文で、ロードは、ここ20余年のアメリカにおける宗教・道徳生活の急激な変化、また知的生活は苛酷になり、精神的(spiritual) 生活が最重要になっているときに、子どもの性格の教育に悩む親たちにとって、フレーベルの「遊戯絵本」が意義があることをのべている。そしてこの「遊戯絵本」はフレーベルが「わらべうたから採集したり」[43] 長い年月のなかで、幼い子どもの全体生活のなかで、繰り返し起こることを詩や歌にしたのであって、文学作品としてではなく、ひとつの示唆あるいは事例 (sample) として見なすべきだ[43] と述べている。1888年6 月の改訂版序文では、フレーベルがますます理解されるようになったのは、精神生活(spiritual life)の重要性がますます認められてきたからであること、「遊戯絵本」で遊ぶ「遊び」に子どもの精神が表現され引き出されることを強調している。[44] ところで、フランシス・ロードとエミリィ・ロードがいかなる人物なのかは、これまでのところわかっていない。

『母の遊戯と育児歌』の最初のアメリカでの翻訳紹介が1885年であるとすれば、幼稚園では『母の遊戯と育児歌』は実際にはどのように取り上げられていたのであろうか。結論から述べると、一冊の「遊戯絵本」として翻訳導入される前に、ひとつひとつの遊戯歌は、幼稚園の保育方法のマニュアルに収められて欧米に伝播していた。ドゥアイやロンゲの幼稚園指導書には、いくつかの遊戯歌が五線譜に表して紹介されている。[45] 最もポピュラーな「はとの家」(コール作曲)[46]は、ドゥアイとロンゲの指導書のほか、多くの幼稚園指導書や幼稚園紹介書に掲載されている。1870年代には英語で書かれた幼稚園指導書はかなり、出揃っていた。幼稚園教員養成所では、恩物の使用法と遊戯と唱歌が教えられたわけだが、『母の遊戯と育児歌』がそのままテキストに使われたのではなく、指導書で取り上げられ、実践にすぐ役だてられる遊戯と歌が教えられたと思われる。唱歌のマニュアル本として最たるものに、次の本がある。

PLAYS AND SONGS for KINDERGARTEN and FAMILY collected and revised by a KINDERGARTNER, NEW YORK, MARTENS BROTHERS, 1874

本書の著者は、「某幼稚園教師」とあるだけで、出版社が必要にかられて緊急に編集出版した感がある。序文にははっきりと「本書は新しい幼稚園遊戯唱歌を提示するものではなく、すでに、ドイツ語から翻訳されているものと、さまざまな幼稚園教育法に関する著作物にバラバラに入っているものをひとつに収集しただけのものである。というのは、そのように分散している状況は一般の人々が幼稚

園遊戯唱歌に接しにくくしているので。」47) と直截に述べている。目次を見ると、テーマごとに７分類をして、全部で８２曲が掲載されている。この８２曲には、『母の遊戯と育児歌』から、「塔の風見」(The Weathercock) 「鳥の巣」(The Nest)「花かご」(The Flowerbasket)「はとの家」(The Pigeonhouse)「親指でひとつ」(The thumb I count as one)「建具屋さん」(The Joiner)他の曲が入っていて、楽譜を照合すると、コールの曲である。ピアノ伴奏はついていない。『母の遊戯と育児歌』以外の歌曲は、フレーベルの「運動遊戯」(Bewegungsspiele)48)で歌う曲がいくつかみられる。その他の歌曲については、ドイツ語から歌詞を翻訳しているというだけで、出典はわからない。
ともかく、このように、指導書やマニュアルをとおして『母の遊戯と育児歌』は翻訳出版より以前に幼稚園現場で指導されていたといえる。

スーザン・ブロウによる『母の遊戯と育児歌』の翻訳

ブロウによる『母の遊戯と育児歌』の翻訳編集本は1895年に出版された。1880年代の半ばまでにブロウとハリスは幼稚園運動のなかでの勢力を失っていた。ブロウはニュー・ヨークに移り、教育界に吹きおこった科学的児童研究運動について行けず、スタンレイ・ホール等から受けた精神的打撃から立ち直れずにいた。精神発達を進化理論から見ようとする新しい趨勢のなかで、ブロウも、いったんは、フレーベルの『母の遊戯』を進化理論の側面からとらえて編集しようと試みたが、すぐに諦め、むしろ、フレーベルの基本的精神にもどろうと決心した。49) 長い葛藤とフレーベルの幼稚園理論の再検討を重ねて、1894年頃からブロウは再び幼稚園教師たちの指導的地位を獲得した。こうして後の国際幼稚園連盟International Kindergarten Union の委員会での幼稚園教育をめぐる実りある知的な論議に委員として互角に論議できる修練が積まれた。

このような時期の1895年、ブロウは２冊の本を編集出版している。その１冊は、１章にあげた②-b) The Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play,.....であり、もう１冊、同時にだされているのが、次のものである。

②-b') THE MOTTOES AND COMMENTARIES OF FRIEDRICH FROEBEL'S MOTHER PLAY. Mother communings and mottoes rendered into English verse by Henrietta R. Eliot. Prose commentaries translated and accompanied with an introduction treating of the philosophy of Froebel, by Susan Blow, New York, D.Appleton and Company, 1895

この２冊は、b') が『母の遊戯と育児歌』の詩歌と遊戯と絵の説明文の翻訳に挿絵がついており、b)が詩歌の訳と挿絵と音楽(曲) の楽譜から成っている。つまり、原著の１冊を遊戯詩歌集と遊戯歌曲集に分けた、と考えられる。翻訳には多数の人がかかわっているが、２冊ともブロウの方針で編集された、といってよいだろう。

b') のTHE MOTTOES...の序文で、ブロウは、フレーベルの思想を率直に読者に伝えるために、原著の複雑で冗長な文章表現を避け、詩の標語や説明文をできるだけ簡潔に表そうとしたことを述べている。さらに、ブロウはフレーベルの象徴主義を批判し、「表紙絵の説明文、これはフレーベルが不自然に象徴主義に陥っている最悪の失策である」として「花の歌」(The Flower Song) 50) につけられた教育学的説明文と「結びの歌」(Closing Thoughts)の散文詩とをともに付録にもっていった。さらに、オリジナルな本の表カバーと裏カバーの象徴的な挿絵は大胆にカットしてしまった。表カバーは母親に抱かれた男の子と女の子の像で、母性と両性が象徴的に表され、裏カバーには父親の両脇の息子と娘の像で、これもまた、力強い父性と息子・娘の特性の象徴的な表現であり、そのような説明文がついている。51) 本書の全体は、「母の語りかけ」の７編の詩と「花の歌」削除した残りの４６編の「遊戯の歌」の説明文をブロウが英訳し、それぞれにHenrietta R.Eliot による詩歌と詩について

いる標語の英訳と挿絵をつけた構成になっている。本の大きさは現在のＡ４版を四つ切りにした大きさで、挿絵の線画が見にくいほど小さい。

b）のThe Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play は、同じ版で、同年、同じ出版社から同じくINTERNATIONAL EDUCATION SERIES として出ている。したがって本書と前書b'）の関係はよくわからない。本書には、前半部に詩歌の英訳と挿絵が掲載され、後半部に遊戯歌の楽譜が掲載されている。詩歌の英訳には、８人の訳者名が記され、その中には前書のH. Eliot の名前も見られる。挿絵で特徴的なのは、原画でひとつの絵にいくつかの区切られたパートがあるものは、そのパートごとの拡大画を次の頁にのせていることである。曲の楽譜部を見ると、ひとつの遊戯歌に２つの曲が掲載されているものが多く、全部で８３曲が集録され、すべての曲の出典と作曲者名が記されている。８３曲中、オリジナルなコール作曲、またはコールの曲をもとにアレンジしたものが、７曲採用されている。それらは、「塔の風見」(The Weather Vane) 「小さな魚」(The Fish in the Brook) 「鳥の巣」(The Bird's Nest) 「はとの家」(The Pigeon House)「壁にうつる光の小鳥」(The Light Bird) 「花かご」(The Flower Basket) 「建具屋さん」(The Joiner)である。作曲者名がなく、ドイツ民謡，フランス民謡，ハンガリア民謡といった民謡も多く選曲されている。本論文では全曲を検討する余裕はないので、目次のみを挙げておく。（図３）

図３

SONGS AND GAMES.

1. Play with the Limbs.....*Old English (17th Century).* 161
2. Play with the Limbs.....*Tyrolese Folk Song.* 162
3. Falling! Falling!.....*Fred. Field Bullard.* 163
4. The Weather Vane.....*George L. Osgood.* 164
5. The Weather Vane.
Arr. from Robert Kohl, by Eleanor Smith. 164
6. The Trees.....*Eleanor Heerwart.* 165
7. The Windmill.....*Adolph Jensen.* 166
8. Wind Song.....*Eleanor Smith.* 168
9. All Gone.....*Fred. Field Bullard.* 169
10. Taste—Guessing Game.....*Fred. Field Bullard.* 171
11. Flower Song.....*Scotch Melody.* 172
12. Flower Song.....*Carl Reinecke.* 173
13. Tick-Tack!.....*Carl Reinecke.* 174
14. Tick! Tack!.....*Eleanor Smith.* 175
15. Mowing Grass.....*German Folk Song.* 176
16. Beckoning the Chickens.....*W. W. Gilchrist.* 177
17. Beckoning the Pigeons.
Arr. from Carl Reinecke, by Eleanor Smith. 178
18. The Fish in the Brook.
Arr. from Robert Kohl, by Eleanor Smith. 179
19. The Fish in the Brook.
Adapted from Johannes Brahms, by Eleanor Smith. 180
20. The Caterpillar.....*Eleanor Smith.* 181
21. Butterflies .....*Elizabeth U. Emerson.* 182
22. The Flying Bird.....*W. W. Gilchrist.* 183
23. The Target.....*Fred. Field Bullard.* 185
24. Pat-a-Cake.....*Alsatian Folk Song.* 186
25. The Mill Wheel.....*Carl Reinecke.* 187
26. The Farmer.....*Swiss Folk Song.* 188
27. The Bird's Nest.
Arr. from Robert Kohl, by Eleanor Smith. 190
28. In a Hedge.....*Eleanor Smith.* 191
29. The Bird's Nest.....*W. W. Gilchrist.* 192
30. What does Little Birdie say?.....*Eleanor Smith.* 193
31. Lullaby.....*J. W. Elliott.* 194
32. Bird Thoughts.....*W. W. Gilchrist.* 197
33. The Flower Basket.....*R. Kohl.* 198
34. The Flower Basket.....*Eleanor Smith.* 200
35. The Pigeon House.....*Robert Kohl, arr. by E. S.* 201
36. Naming the Fingers.....*French Folk Song.* 202
37. The Greeting.....*Scotch Folk Song.* 204
38. Thumbs and Fingers say, "Good Morning."
Eleanor Smith. 205
39. The Family.....*W. W. Gilchrist.* 206
40. The Family.....*Euphemia M. Parker.* 207
41. The Family.....*Austrian Folk Song.* 209
42. Numbering the Fingers.....*French Folk Song.* 211
Lullaby.....*Peruvian Slumber Song.* 212
43. Go to sleep, Thumbkin.....*Eleanor Smith.* 213
44. Five in a Row.....*Carl Reinecke.* 214
45. Finger Piano.
Arr. from Carl Reinecke, by Eleanor Smith. 216
46. The Happy Brothers and Sisters..*Old French Lullaby.* 217
47. The Baby and the Moon.....*Eleanor Smith.* 218
48. O look at the Moon!.....*W. W. Gilchrist.* 220
49. The Little Maiden and the Stars....*George L. Osgood.* 221
50. The Child and the Star.....*J. W. Elliott.* 223
51. Twinkle, Twinkle, Little Star.....*J. W. Elliott.* 223
52. Stars and Daisies.....*Eleanor Smith.* 225
53. The Light Bird.
Arr. from Robert Kohl, by Eleanor Smith. 226
54. The Light Bird.....*Eleanor Smith.* 227
55. The Shadow Rabbit.....*Child Song (Old French).* 228
56. The Little Window.....*W. W. Gilchrist.* 229
57. The Window.....*Eleanor Smith.* 231
58. Transformation Game.....*Eleanor Smith.* 232
59. The Charcoal Burner.....*Fred. Field Bullard.* 233
60. The Carpenter.....*W. W. Gilchrist.* 235
61. The Carpenter...*E. M. Parker, arr. by F. F. Bullard.* 236
62. The Bridge.....*Eleanor Smith.* 238
63. The Joiner.....*Robert Kohl.* 239
64. The Farmyard.....*French Folk Songs.* 240
65. The Garden Gate.....*W. W. Gilchrist.* 242
66. The Little Gardener.....*Hungarian Folk Song.* 243
67. The Little Gardener.....*Carl Reinecke.* 245
68. Little Annie's Garden.....*Eleanor Smith.* 246
69. The Little Plant.....*W. W. Gilchrist.* 247
70. The Wheelwright.....*Eleanor Smith.* 248
71. The Knights and the Good Child.....*Eleanor Smith.* 250
72. The Knights and the Bad Child.....*Eleanor Smith.* 252
73. The Knights and the Mother.....*Eleanor Smith.* 254
74. The Knights and the Mother.....*Eleanor Smith.* 255
75. Hide and Seek.....*After Haydn.* 257
76. The Cuckoo.....*Fred. Field Bullard.* 258
77. Hiding Game.....*Carl Reinecke.* 259
78. Guessing the Singer.....*Carl Reinecke.* 260
79. The Church.....*Eleanor Smith.* 261
80. Wandering Song.....*Old French Lullaby.* 263
81. The Visit.....*Carl Reinecke.* 265
82. Wandering Song.....*Fred. Field Bullard.* 266
83. Rippling, Purling Little River.....*W. W. Gilchrist.* 268

以上のように、ブロウはフレーベルの象徴主義を削減し、アメリカの子どもに合うように、新しい作曲による曲やヨーロッパの民謡（Folk Song)を採り入れて、『母の遊戯と育児歌』を現代アメリカ社会に適用しようと努力した。果して成功したのかどうかは、別に検討しなければならないが、ここに少なくともアメリカでの受容の特徴がよくあらわれていると言える。

4．『母の遊戯と育児歌』のアメリカでの受容―― まとめ

フレーベルがドイツの農村で創設した幼稚園の種がアメリカの土壌に根づく過程で幼稚園教育の核心ともいうべき遊戯や唱歌がどのように育ち花を咲かせたのかは興味ある問題である。フレーベルの『母の遊戯と育児歌』は、ドイツの伝承遊戯やドイツの乳幼児の日常生活にくりかえし起こるささいなことをとりあげて詩歌にまとめた「遊戯絵本」であった。しかし、独創的な教育実践は一度限りの芸術作品のようなものであるので、いったん作者の手を離れたり、ましてや創作者がこの世から去って半世紀も経つと、運動の発展や普及の度合いと相まって教育実践の意味が見うしなわれ、形式だけが定型化してゆく。その変容の過程と作者の精神にたちかえって再生させる過程は、受け入れた社会の歴史や文化状況によって違ってくるであろう。

アメリカでは正統派フレーベル主義者といわれたブロウが1870年代から80年代前半にかけて幼稚園をひろめ、アメリカのフレーベル主義幼稚園の基礎を築いた。このフレーベル主義幼稚園について、津守真等は『幼稚園の歴史』52) のなかで次のようにのべている。「フレーベル主義幼稚園が実際に行っていたことは、フレーベルの考案した教育の実際そのままであり、それを少しも外さずに実行しようとしたのである。したがって保育は、恩物および『母の遊戯と愛撫の歌』がその中心を占めていた。」「保守派のフレーベル主義者たちは、このフレーベルの教材と彼の教育理念とを一点一画に至るまで墨守した。」53) この部分を敢えて引用したのは、アメリカでも日本でも幼稚園の歴史をこのようにとらえている人が多いと思うからである。

ここで筆者はフレーベルの教育の実際や教育理念とフレーベル主義幼稚園をはっきり区別する必要があると思う。最初に述べたように、フレーベルの幼稚園という芸術作品は、彼の死後、ヨーロッパ，アメリカへの幼稚園の普及の過程でかなり変容を遂げていた。確かにフレーベルの著作は必要以上に象徴主義で粉飾されているが、保育実践そのものは単純で乳幼児期の本質をとらえたものであった。象徴主義の拡大解釈や２０恩物54) への体系化はフレーベル幼稚園の普及の過程で起こったものである。本論文では、このことにこれ以上ふれることはできない。ブロウらの正統派フレーベル主義者たちが、フレーベルの精神や理念や教育の実際をどこまで理解しそのまま実行できたかは疑わしい。『母の遊戯と育児歌』についてみると、この一冊の「遊戯絵本」が翻訳紹介される前に、また、この「遊戯絵本」の教育的意義や精神が幼稚園教育者に理解されるはるか以前に、遊戯の曲はいろいろな指導書に取り上げられ、導入されていた。幼稚園教師養成所では、Songs and Games は重視され、実技として教えられた。しかし、ここでもこの「遊戯絵本」にもられたフレーベルの精神ではなく「遊び方」「歌い方」のみが伝えられた。象徴主義的な表現のみが拡大して伝えられた。正統派フレーベル主義者のブロウは、象徴主義批判のなかで、曲を大幅に選曲しなおし、進化理論の枠組み (evolutionary format) 55) で改訂しようとしたが、少なくともそれによって、フレーベルの「遊戯絵本」の精神に立ち返ることができたとは、筆者には評価できない。ブロウの翻訳では、乳児対象の「わらべうた」や「あやしうた」が削減されて、幼稚園遊戯唱歌の量が増えている。

本論文で検討してきたアメリカでの変容は、アメリカだけのことではないのかもしれない。筆者には「遊戯」を教材化するときに、普遍的に起こらざるをえないことのように思える。後の研究でこのことを明らかにしてゆくつもりである。

注

1) フレーベル著　長田　新訳　フレーベル自伝　岩波書店　203 頁
2) die dritte Spielgabe　第一遊具は紐のついた６色の毛糸のボールで０歳台の赤ちゃん用，第二遊具は球、立方体、円柱などの木の立体で１，２歳用，この第三遊具は立方体積木で３歳用の遊具である．
3) フレーベルが1839年ブランケンブルクに「青少年の活動衝動を育てる施設」として始め、1840年に、自然のなかで樹木が一本一本個性豊かに群生するのをイメージしてKinder-Garten(子どもの園)と命名したもの．
4) この種の研究は、まだ始まったばかりで、先行研究としてあげられるものがない．
5) Johannes Prüfer(1882-1947)ライプツィヒ生まれの教育学者．フレーベル研究者でもあり、社会教育者でもある．1918年から"Eltern und Kind"（親と子）という雑誌を発行する．フレーベル研究では、Friedrich Fröbel, Sein Leben und Schaffen, 1927 がある．
6) 倉橋惣三(1882-1955) 東京帝国大学で哲学を学ぶ．明治43年東京女子高等師範学校講師．「婦人と子ども」誌の編集をてがけ、大正6 年(1917)東京女子高等師範学校附属幼稚園の主事となり、以後没するまで日本の幼稚園教育を指導する．フレーベルの原理をよく研究したうえで、日本の幼稚園に適用し、発展させた．
7) 茅野蕭々訳『フレョエベル母の歌と愛撫の歌』193頁
8) Wichard Lange, Friedrich Fröbel's gesammelte pädagogische Schriften, Abt.1,Bd.1, Bd.2,Abt.2, 1862 本書は1966年に復刻版が出ているが、その中にはMutter= und Koselieder は収録されていない．
9) Annie Lyon Howe(1852-1943)シカゴ・フレーベル協会保母養成学校で学び、1887年神戸の教会のの招きで来日した。1889年神戸市中山手に頌栄保母伝習所と幼稚園を設立する．以後40年にわたってキリスト教系私立幼稚園として独自の幼稚園教育を行い、日本の幼稚園の発展につくした．論文の第２部でくわしくとりあげる．
10) Susan E. Blow(1843-1916)
11) A.L.ハウ著『母の遊戯及育児歌』序文．高野勝夫著『エ・エル・ハウ女史と頌栄の歩み』頌栄短期大学　昭和48年 48 頁
12) 小場瀬卓三・佐藤静夫・日高八郎・北条元一編　世界の文学５　１９世紀前半編　ロマン主義の時代　1976年　新日本出版社　106 ～117頁
13) フレーベル著　長田新訳『フレーベル自伝』 57 頁
14) フレーベル著　長田新訳　前掲書　65頁
15) フレーベル著　岩崎次男訳　『人間の教育』上　50頁
16) 『世界図絵』Orbis Sensualium Pictus　ボヘミアの思想家コメニウス(Johann Amos Comenius 1592-1670)による「汎知」を基礎にした世界初の絵入り教科書
17) 長尾十三二著　『ペスタロッチ「ゲルトルート」入門』明治図書
18) フレーベル著　長田新訳　前掲書　99頁
W.Lange,Friedrich Fröbel's gesammelte pädagogische Schriften, Ab.1,Bd.1, S.90
19) 小原国芳・荘司雅子監修　フレーベル全集　第五巻　玉川大学出版の荘司雅子の訳による．
20) 小原国芳・荘司雅子監修　フレーベル全集　第五巻　玉川大学出版　24頁
21) フレーベル著　岩崎次男訳　『幼児教育論』明治図書　92頁
22) 49篇の「遊戯の歌」の目次は次頁（表１）のようになっている．
23) 小原国芳・荘司雅子監修　フレーベル全集　第五巻　玉川大学出版　26頁
24)　同上書　29 頁
25)　同上書　94 頁

（表1）

遊戯の歌

1.◇*足をばたばた……26
2. *ぱったりこ　ぼうやがころぶ……30
3. *塔の風見……34
4. *おしまい……38
5.◇*味の歌……42
6. *チック　タック……50
7. *草刈り……54
8. *にわとりさんおいで……58
9.◇*はとさんおいで……62
10. *小さな魚……66
11. *たてによこに……70
12. *お菓子づくり……74
13. *鳥の巣……78
14. *花かご……82
15. *はとの家……86
16.◇*親指はすもも……92
17.◇*親指のごあいさつ……96
18. *なつかしいおばあさんとお母さん…100
19.◇*親指でひとつ……106
20. *指ピアノ……110
21. *指ピアノに合わせる歌……114
22. 無邪気な姉妹……116
23.◇ 塔の上の子どもたち……120
24.◇ 子どもとお月さま……126
25.◇ 小さな男の子とお月さま……132
26.◇ 二歳まえの女の子とお星さま……138
27. *壁にうつる光の小鳥……144
28. *小うさぎ……150
29. *おおかみといのしし……154
30. *小　窓……160
31. *窓……162
32. *炭焼き小屋……166
33.◇*大工さん……170
34.◇*小さな橋……176
35.◇*中庭の門……180
36. 庭の門……182
37. *小さな園丁……188
38.◇*においの歌……192
39. *車屋さん……200
40.◇*建具屋さん……204
41.◇*騎手とよい子……208
42.◇*騎手とふきげんな子……214
43. *ぼうやかくれなさい……218
44. *かくれんぼ……222
45.◇*かっこうかっこう……226
46. 店屋と女の子……230
47. 店屋と男の子……234
48. *教会の扉と窓……238
49. 小さな絵かき……242

26)　同上書　106 頁

27) 尾原昭夫編著　『日本のわらべうた』　社会思想社　38 頁

28) 小原国芳・荘司雅子監修　フレーベル全集　第五巻　玉川大学出版　276,277 頁

29) 茅野蕭々訳　前掲書より

30) 茅野蕭々訳　同上書

31) 茅野蕭々訳　同上書

32) フレーベル著　長田新訳　前掲書　80頁　なお、長田は「符号」と訳しているが、原著では Ziffelなので「数字」のことである.

33) Mother's Songs, Games, and Stories; Fröbel's "Mutter= und Koselieder" Rendered in English by Frances and Emily Lord,1891　p.5 & p.7

34) Michael S.Shapiro, Child's Garden: Kindergarten Movement from Froebel to Dewey,1983 pp.45-63

35) Michael S. Shapiro, ibid.,pp.79

36) Michael S. Shapiro, ibid.,pp.50-56

37) Maria Boelte 1872 年にドイツよりアメリカに招聘され、ニューヨークで幼稚園教員養成所を開設. マダム・クリーゲのボストンの養成所とともに、初期のアメリカにおける幼稚園教員養成に貢献する.

38) フレーベルはSpielgabe と言い、英語ではGiftと訳された. 日本では関信三が『幼稚園二十遊戯』で初めて「恩物」と訳し、明治時代の終わり頃までこの用語が使われていた.

39) フレーベルはBeschäftigungsmittelと言い、竹ひご、紙、板、粘土などの手工の材料をさしていた. 後に恩物と一緒のひとつのセットに組み入れられた.

40) アメリカの幼稚園が持ついくつかの欠点(1900 年)G.S. ホール（阿部真美子他監訳『アメリカの幼稚園運動』明治図書　164 頁）

41) Frances and Emily Lord, Mother's Songs, Games and Stories.の内表紙

42) Frances and Emily Lord, Mother's Songs, Games and Stories. Preface to First Edition,pp.20

43) Frances and Emily Lord, ibid., Preface to First Edition, pp.16
44) Frances and Emily Lord, ibid., Preface to Revised Edition, pp.26
45) Adolf Douai, The Kindergarten. A Manual for the Introduction of Froebel's System of Primary Education into Public Schools;and for the use of Mothers and Private Teachers,E.Steiger, New York, 1872
Johannes and Bertha Ronge, A Practical Guide to the English Kindergarten,(Children's Garden), for the Use of Mothers, Governesses, and Infant Teachers; London, 1854
46) 「はとの家」は『母の遊戯と育児歌』(1844 年) に掲載されているが、1850年8 月4 日のアルテンシュタインの遊戯祭りで参加者の子どもたちによる集団遊戯が披露された．したがってこの頃から遊戯ができあがってきたのではないかと思われる．
47) 論文中の同書のPREFACE に著者の署名なしで記述．なお本書は、文部省が購入して、現在国会図書館に所蔵されている．
48) フレーベルが幼稚園で実践したいくつかの運動遊戯がランゲの全集に楽譜つきで収められている。これらの歌はランゲタールが作曲したと言われている．
49) Michael S. Shapiro, ibid.,pp.117
50) この「花の歌」は、プリューファー編集の『母の歌と愛撫の歌』には掲載されていない．したがって、ブロウが用いた底本はプリューファー編ではない．また、序文からランゲ編でもザイデル編でもないことがわかる．
51) プリューファー編集の『母の歌と愛撫の歌』には表表紙、裏表紙、両表紙の説明文ともに省略されないかたちで掲載されている．
52) 津守真・久保いと・本田和子著『幼稚園の歴史』 厚生閣 昭和34年初版 本書はまだ内外ともに幼稚園の歴史の研究が進んでいなかった昭和34年に初版がだされたものである．
53) 津守真・久保いと・本田和子著 同上書 151 頁
54) フレーベルの死後、フレーベル運動のなかで、「遊具」と「作業具」が２０の遊具に体系化された．アメリカでも、Twenty Gifts という用語が初期の幼稚園指導書にはでてくる．いつごろ、誰によって「２０恩物」に組織されたかは、いずれ別の論文で明らかにするつもりである．
55) Michael S. Shapiro, ibid.,pp.117